

2003年5月4日。大草原に初夏の風が薫る。カルスト台地でのナビゲーションを堪能しよう！北九州市近郊の平尾台がその舞台だ。

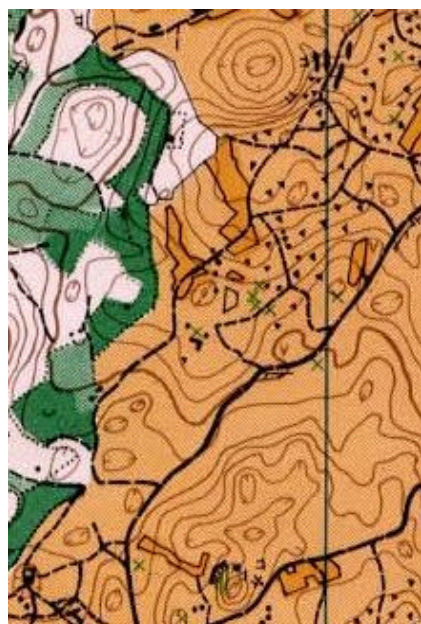
クラブ創立30周年の北九州 OLC が贈る初夏のイベント。

平尾台を走ろう！

2002年3月、平尾台地図のリメイクの一次調査が終わりました。

平尾台は、国定公園や県立自然公園に指定され、四季折々の多彩な表情を見せる台地です。百万都市・北九州市にあり、市民の憩いの場として親しまれています。お隣の山口県秋吉台（平成15年度全日本のトレイン）に次いで日本有数のカルスト台地の景観を誇る行楽地でもあります。

北東部の大平山（おおへらやま）中腹から南西方面を眺望すると、広大な草原に「ようくんばる羊群原」と呼ばれる白い羊の群のような石灰石の露出があり、そのカルスト台地の壮大さに息を呑むことでしょう。



平尾台の旧 O-map

カルスト台地特有のドリーネ、草原のオープン、森林部分などトレインは変化に富んでいる。



平尾台は一見すると草原ですが、ドリーネ（すり鉢状の窪地）あり森ありの大地です。この起伏に富んだオープンな草原を走って見たいという衝動に駆られるのはオリエンテアだけではないでしょう。

平尾台の旬は春！

ちょうど今年が北九州オリエンテリングクラブ結成30年で、この節目に“平尾台でビッグ大会”をという仲間内での機運が盛り上がりました。平尾台でオリエンテリングをやるとすれば春がベストシーズンです。

平尾台では3月に「野焼き」が行われます。4月になると黒く焼けた山肌は新緑へと衣替えを始めます。オリエンテリングにとって最適な時期はこの頃です。5月の若葉の季節を経て、その後草原には青々と夏草が繁って全域が走行困難となります。この頃になると地図上の小径は背の高い茅（かや）に覆われて消えてしまい、オリエンテリングはまず不可能となります。

温暖多雨の日本の気候では草原はやがては森林へと移り変わるわけですが、平尾台の3月の風物詩「野焼き」はこれを防ぎ草原を維持する機能があります。平尾台の春は、さまざまな野草が一斉に花を咲かせ行楽客を楽しませます。野鳥の姿も増えてきます。頭上にはおしゃべりなヒバリ。森の中では「ケーン、ケーン」というキジの鳴き声も聞こえて来ます。

過去に行われたオリエンテリング大会では、満開の桜吹雪の中でゴールを競うこともありました。児童グループが、丘の上のワラビを一杯摘んで引率の先生へのプレゼントにしたこともありました。陽春の丘には、いつも若者の華やかな姿や声がこだましました。

平尾台のオリエンテリング

平尾台をオリエンテリングに使おうと地図調査が始まったのは、1986年正月の香港での APOC'86 で草原状のオープンゲレンデの OL 経験からでした。最初の平尾台大会は1987年（昭和62年）4月26日。会報『OL北九州79号』では、「白昼のナイトOL」と題して「...折りもあるうに白雲のベールに包まれ視界も極端に悪くなって、外灯もとまり、まさに白昼のナイトOLに等しく、正置に歩測、サマーレディングの基本動作はゆるがせにできず、なかには勇気ある撤退を余儀なくされたかたも出たほどだった。」と報じています。

期待できる新地図

今回の平尾台リメイク地図は、旧地図とは全く違う様相を呈しています。調査は ISOM2000 準拠の縮尺 10:000 分の1になっています。旧地図であまり踏み込まなかった地区にオリエンテリングの適地があることが今回の地図調査の過程で判りました。



平尾台は秋吉台と同じく、石灰岩群がたくさんあります。草原の中に畑も多く見られます。写真の中にはドリーネの大きな窪みも見えています。

昨年から地図の2次調査が行われています。急遽ハンディGPS受信機も投入し、さらなる精度の向上を計っています。オープントレインであることが幸いし、ハンディタイプのGPS受信機でもかなりの精度向上を図ることができました。

吉村兄弟の活躍！

今回の調査の要となっている吉村兄弟は、生粋の北九州OLCの出身です。お父さんの吉村芳孝さんは、1973年北九州OLC発足当初からの8人の会員のひとりです。地域では子供会のお世話をしており、また平成11年には(株)新日鐵での職場OL活動で「地域社会貢献賞」で表彰されました。まだ行政がOLを主導していたころの森林公園で、充功君はお父さんの背中におんぶされて家族組で回っていたのを覚えています。その後、第16回全日本大会(石川県)で、年史君はH17-18A、充功君はH13-14Aで優勝。それぞれ北九州市民体育賞を兄弟で受賞し「北九州に吉村あり」を印象づけました。



吉村充功(弟) 吉村年史(兄)

その後、2人はめきめきと頭角を現し、年史君は第20回全日本大会(三重県)H19-20Eでも優勝。充功君は第18回(岐阜県)、第19回(島根県)の全日本大会で優勝という輝かしい戦歴を持ち、両名とも広島大学進学後はジュニア世界オリエンテーリング選手権大会(JWOC)に派遣されてもいます。(吉村年史:1992年フィンランド、吉村充功:1995年デンマーク)

第26回全日本大会(1999年福岡県)の地図作成はもちろん、最近の我がクラブのOCAD地図は全部吉村ジュニアの調査作成にかかっています。

求められるナビの技量

地図と共に、コースプランニングも競技の質を左右する最も重要な要素ですが、クラスに応分の課題が課せられるコースが出来ることでしょう。平尾台という日本有数のカルスト台地形のほぼ全域を使用し、高速走行のできる草原がある反面、多数のドリネ、岩石地域また森林など変化に富んだトレインで、高度なナビゲーション能力が要求されるでしょう。

4月からは、大会コントローラー・大井和之さんを迎えてのコース試走段階に入ります。大会役員となるクラブ・協会会員は過去の公認大会などの競技参加や運営経験の豊富なオジさん達で、競技参加者の立場にたって誰がどの役割でもこなせるようにしています。

九州初の電子パンチング

ベテラン揃いの北九州オリエンテーリングクラブですが、Emit社の電子パンチングシステムは今回初めて使用します。競技者個人のラップタイムの記録開示は、従来できなかった結果の透明性、リアルタイム性をもたらし一般の方々にもアピールするでしょう。吉村ジュニアの登場を待ってクラブ会員多数が熱望していた方式が実現することになりました。

5月連休は北九州へ！

本大会は2003年5月4日に開催されます。

5月連休3日間には『平尾台自然の郷』のオープニングイベントが開かれ、オリエンテーリング大会は、5月4日のメイン行事となっています。北九州モノレール終点駅から、会場まで無料シャトルバスも運行しています。

日本ランキング大会に指定され、質の高い大会を提供すべく最終準備を行っています。山口インカレの感動を今一度平尾台で追想できますよ。平成15年度全日本(秋吉台)のプレ大会として足慣らしに走ってみませんか(?)

5月3-4日は、『博多どんたく』もあっています。4月29日(緑の日)は福岡の「海の中道公園OL大会」も催されています。平尾台の地下には一見の価値ある約1キロあまりの「千仏鍾乳洞」もあります。どうぞ5月の連休には平尾台大会を目指して九州入りをしてください。お待ちしております。

(北九州OLC 吉田稔道)